

(3) 飼料用とうもろこし

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬 剤 防 除		
		防除時期	RACコード	薬 剤
1 苗立枯病 <i>Fusarium avenaceum</i> <i>Penicillium</i> sp. ピシウム苗立枯病 <i>Pythium sylvaticum</i> <i>P. debaryanum</i> <i>P. ultimum</i> var. <i>ultimum</i> <i>P. spinosum</i> <i>P. paroecandrum</i>		播 種 前 (種子塗沫)	M3	キヒゲンR-2フロアブル
2 アブラムシ類	1. 過繁茂を 방지、通風、採光に努める。 2. 窒素過多に注意する。 3. 発生を認めた場合は、できるだけ薬剤を散布しないで早めに刈り取るように努める。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. 放牧の場合は使用時期の日数を経過した後に放牧する。	発 生 初 期	1B 4A	スミチオン乳剤 モスピラン顆粒水溶剤
3 タマナヤガ	1. 作付け前に圃場内の除草を行う。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. 雑草の繁茂している圃場に発生しやすい。 2. 放牧の場合は使用時期の日数を経過した後に放牧する。 3. 飼料用とうもろこしは子実用と青刈用があり総使用回数はともに2回である。	発 生 初 期	1B	ダイアジノン粒剤 5
4 ツマジロクサヨトウ	1. 卵塊、幼虫集団を見つけたら摘除する。 2. 薬剤による防除が困難な場合、収穫が可能であれば直ちに収穫・調整を行う。 3. 刈取り後は、土の上に落ちた幼虫や土中のさなぎを駆除するため、速やかに耕うんする。 4. 直ちに収穫が困難な場合は、被害の拡大や虫の分散等を防止するため、速やかにすき込みを実施する。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. ルミビアFSは乾燥種子に塗抹処理する。 2. デルフィン顆粒水和剤、トレボン乳剤はオオタバコガにも登録がある。	播 種 前 発 生 初 期	28 14 3A 11A 11A 11A	ルミビアFS パダンSG水溶剤 トレボン乳剤 ジャックポット顆粒水和剤 チューレックス顆粒水和剤 デルフィン顆粒水和剤
5 アワノメイガ	1. 収穫後の株及び残さは直ちにすき込み、処分する。 2. 圃場周辺のイネ科雑草防除をする。	発 生 初 期	14	パダンSG水溶剤

農薬の使用法や注意事項はラベルで確認する